

長崎みなとメディカルセンター

MINAMOTO

Nagasaki Harbor Medical Center

2025.February

VOL.
08



心臓手術の舞台裏
— 心臓血管外科手術チーム —

長崎みなとメディカルセンター広報誌
MINAMOTO VOL.08

編集・発行 長崎みなとメディカルセンター総務課
〒850-8555 長崎県長崎市新地町6-39 TEL.095-822-3251 / FAX.095-826-8798 <https://nmh.jp/>

長崎みなとメディカルセンター・スローガン

いのちの、みなと。

航路における「みなと」は、
疲れた時に帰ってこられる場所、
ひと息つける場所。
長崎みなとメディカルセンターは、
長崎の医療において、
文字通り皆さんの「いのちの、みなと」
となることを目指しています。



“あしたの空”

窓いっぱいに映っているのは何だろう。
その先には何があるのか。
長崎の山々が、海の向うまで這いあがるように延びていって、
やがて消える。
海にこぼれた天の明りを、掬いあげるように、
遥かな彼方から伝わってくるものは、
見知らぬ国の、見果てぬ夢。
いま、窓いっぱいに映っているのは、
あしたの空と、今を生きる人たちのすこやかな命。
(原画・描画：野見山 暁治 / 制作：クレーレ熱海ゆが
わら工房)

当院2階ラウンジを彩る、柔らかい光が優しく差し込むステ
ンドグラスに込められたテーマです。
2階ラウンジは、患者さんやご来院の方が外来の合間や待
ち時間にゆったり休んでいただいたり、ロビーコンサートや
ミニ講座の会場としても使用しています。病院という慌ただ
しく緊張感のある空間から一旦離れ、どうぞごゆっくりおく
つろぎください。

いのちに 全速力!



▲病棟で診療介助の様子

私は学生の頃から途上国に興味があり、国内外で活躍する看護師になりたいと思ってきました。2020年に長崎大学熱帯医学短期研修課程を修了したのち、同年9月より当院救命救急センターに勤務しています。当センターには、長崎大学病院「救急・国際医療支援室」から、海外での研究や医療支援活動を行っている医師が多く派遣されています。

2023年度末、当支援室の看護師枠が発足し、私は長崎みなとメディカルセンターを一旦退職して、救急・国際医療支援室の看護師として再入職しました。

この度、2024年10月7日から25日までの3週間、フィリピン共和国マニラを中心に、高橋健介医師の指導の下、ジフテリア研究支援活動を行ってきました。ジフテリアはワクチンで予防可能な疾病で日本ではほとんど診る機会がありませんが、フィリピンでは未だに多くの重症例・死亡例が報告されており、この研究による病態の解明と啓発活動が喫緊の課題となっています。今回の派遣では、長崎大学の拠点があるサンラザロ病院を中心に、ヘルスセンターや調査対象地域を訪問したり、倫理審査書類を作成するなどして研究準備を行いました。

現地の病院では、国内で見ることの少ない、ジフテリア・狂犬病・デング熱・レプトスピラ症などの症例を診させて頂いたり、日本との医療システムの違いを目の当たりにし、驚きと共に沢山の学びの機会となりました。

今回は、倫理審査を通過し調査が始まる時期の渡航を目標としています。今回の派遣で至らなかった自身の課題を高められるよう、日々自己研鑽を重ね、現地スタッフと共に試行錯誤しながら取り組んで行きたいと思っています。

また今回の派遣に対し、理解し温かく送り出してくださった当院スタッフの方々にも大変感謝しております。そして、今後更に国際協力を学びあえる仲間が当支援室に集まることを願っております。

看護師
山崎 順子

長崎大学病院 高度救命救急センター
救急・国際医療支援室
(長崎みなとメディカルセンター勤務)

フィリピンでの ジフテリア研究支援活動を経て



▲サンラザロ病院の前で



▲ヘルスセンターの様子

MINAMOTO

VOL.08

2025.February



心臓血管外科医は現在2名体制で診療を行っています。(横瀬・橋詰)
心臓血管外科設置から10年が経ち、これまで700件以上の開胸手術を実施してきました。
今後とも地域の皆様の心臓疾患について、様々な方向から医療提供をしていきたいと考えています。

CONTENTS

- 03 いのちに全速力
フィリピンでのジフテリア研究支援活動を経て
- 04 がんフロンティア
子宮頸がんは予防できるがんです!
- 06 地域と、もっと。～循環器～ Case Report
COVID19 流行期の急性心筋梗塞成績について
- 07 地域と、もっと。～脳神経～ Case Report
脳出血に対する低侵襲的外科治療-神経内視鏡による血腫除去術-
- 08 みなとの最前線
当院は「地域がん診療連携拠点病院」です
- 09 One Team Report
心臓血管外科手術チーム
- 10 支える人、寄り添う人
歯科医療と長崎医療人育成の充実
- 11 Specialty Journal
こんにちは! 臨床検査部です
「迅速、正確、付加価値」をモットーに
- 11 MINATOPICS

がん フロンティア

FRONTIER OF CANCER

子宮頸がんは 予防できるがんです！

子宮頸がん治療成績は？

【二次予防】性交経験前のHPVワクチン接種(定期接種)を受けましょう
 【一次予防】20歳以上の女性は、2年に1回の子宮がん検診を受けましょう

子宮頸がんの効果のある分子標的治療薬が出てきました！

細胞障害性抗がん剤(白金製剤など)に加え、分子標的薬のベパシズマブ(血管新生阻害薬)、免疫チェックポイント阻害薬のペムプロリスマブ(抗PD-1抗体)、さらにセミプリマブ(抗PD-1抗体)が子宮頸がんへの効果もあることが認められ、適応が拡大されてきました。

子宮頸がんの原因は？

1983年ハラルド・ツァ・ハウゼン (Harald zur Hausen) 博士が、子宮頸がん組織からHPV (Human Papilloma virus) 16型をクロニング(2008年ノーベル医学生理学賞受賞)し、子宮頸がんの原因がウイルス感染であるとわかりました。その後ワクチン開発が進み、2007年に海外でのHPVワクチンの定期接種が開始さ

子宮頸がんの5年生存率

進行期	2009年治療例	2016年治療例
I	92.4%	92.3%
II	76.7%	77.0%
III	54.3%	56.1%
IV	25.2%	30.3%
計	4,126例	5,800例

(日本産科婦人科学会 婦人科腫瘍委員会治療年報報告より作成)



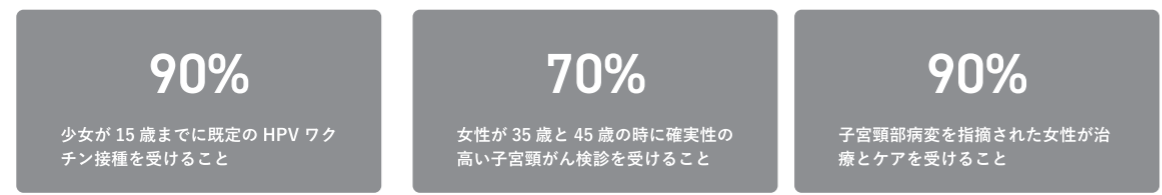
副院長 兼 産科・婦人科 診療科長
小寺 宏平

子宮頸がん排除のための構造

描いているもの：子宮頸がんのない世界

閾値(排除の基準)：すべての国で子宮頸がんの罹患率が4/100,000人年より少なくなる

2030年の介入目標



SDGs 2030 (Sustainable Development Goals 2030)の項目34では、子宮頸がんの死亡率を2030年までに30%減らすことを目標にしている。

2030年の目標と排除の閾値は、モデリングの結果とWHOの承認プロセスに応じて改訂される可能性があります。

「子宮頸がんのない世界」を描くSDGs 2030

SDGs 2030 (Sustainable Development Goals 2030)の項目3.4では、子宮頸がんの死亡率を2030年までに30%減らすことを目標にしています。そのための方策は以下の3つです。

- ・90%・15歳までの女性が、限定のHPVワクチン接種を受けること
- ・70%・35歳と45歳の女性が、確実性の高い子宮頸がん検診を受けること
- ・90%・子宮頸部病変を指摘された女性が治療とケアを受けること

キャッチアップ接種の期間が1年延長！

定期接種の対象者であった方で、HPVワクチンの公費での接種機会を逃した方は、公費でHPVワクチンを受けることができます(キャッチアップ接種)。対象は1997年4月2日～2008年4月1生まれの方で、締め切りは2025年3月31日です。

しかし、2024年11月末に厚労省は、需要が大幅に増加し希望者が無料期間内に接種を完了できないことが懸念されるため、無料期間を1年延長することにしました。それに伴い2009年4月1日生まれの女性も対象となりました。ただし条件として、当初期限の2025年3月31日までに少なくとも1回受けた人が対象となります。

定期接種対象となる小学6年～高校1年相当の女の子にはもちろん、ぜひこの機会に、キャッチアップ対象者にはHPVワクチン接種を勧めてください。

HPVワクチン接種とがん検診で予防可能な子宮頸がんを撲滅しましょう。

1997年4月2日～
2009年4月1日生まれ
(15～27歳)の女性必見
(国庫在庫の2009年生まれの女性で対象)

約10万円が無料(公費接種)
キャッチアップ接種1年延長!

子宮頸がん予防 HPVワクチン
2026年3月31日まで延長
0、2、6ヶ月の3回接種

2025年3月31日までに
1回目接種が条件です!

接種できる病院案内
長崎子育て応援情報サイト「イーカサ」<https://ekasa-nag.jp>
(県内の医療機関であれば、原則無料で接種できます。)



脳出血に対する低侵襲的外科治療 - 神経内視鏡による血腫除去術 -

山口 将

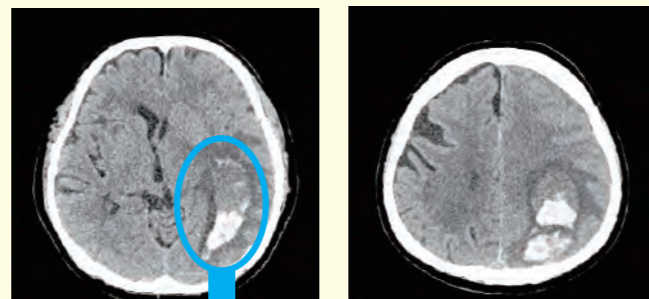
脳卒中センター・脳神経外科 医長
日本脳卒中の外科学会 技術認定医
日本神経内視鏡学会 技術認定医
日本脳血管内治療学会 専門医



が必要です。患者の状況に応じて最善と考えられる治療法を個別に決定する必要があります。

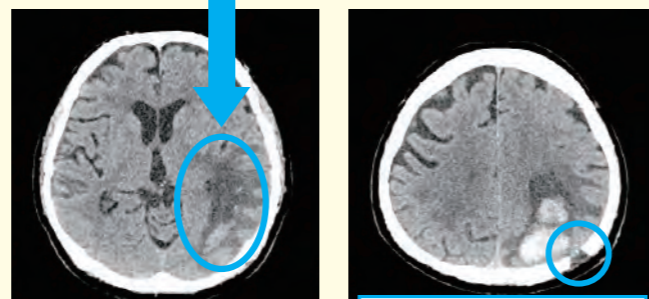
症例は60歳代男性。左頭頂後頭葉の皮質下出血により脳神経内科で保存治療開始となるも、入院後の血腫増大で右片麻痺と失語の悪化を認め、入院2日目に局所麻酔での内視鏡的血腫除去術を施行しました(図)。術後に症状は徐々に改善し、入院15日目に回復期リハビリ施設へ転院となっております。

術前頭部CT



血腫は除去され、脳の圧迫は軽減されている。

術後頭部CT



20mm 程度の穴から手術

いつでもお気軽にご相談ください。
脳神経外科 診療科長 陶山 一彦 ☎ 095-822-3251

脳卒中の中でも発生頻度が高い脳梗塞(心原性脳塞栓症やアテローム血栓症)は、急性期の血行再建術(静注血栓溶解療法やカテーテルを用いた機械的血栓回収療法)の進歩により、患者さんの転機改善が近年明らかになってきていますが、脳動脈瘤を主体とした「くも膜下出血」の治療成績は有意な改善が報告されていません。

一方、脳実質内の「脳出血」は日本をはじめとするアジア各国での発生頻度が依然高い疾患ですが、従来から外科治療(開頭術)の適応は極めて限られ、概しての治療成績も燦々たるものでした。

正常な脳の一部を破壊して血腫除去を行う意味があるのか?一出血による脳の不可逆的な損傷があるため血腫を取ることで症状がよくなるわけではなく、血腫や周囲浮腫が増大し正常な脳を圧迫して二次的に症状が悪化するのを予防する必要があります。

当院では患者さんへの低侵襲化を第一に、「脳出血」に対して神経内視鏡を用いた血腫除去術を積極的に行っています。局所麻酔または全身麻酔で、CTほか画像ナビゲーション併用で頭皮を小切開、頭蓋骨に20mm程度の穴をあけることにより脳内の血腫除去が可能です。手術時間は40~60分で終了し、患者さんの回復を促し早期のリハビリに繋がります。

2020年に発表されたシステマティックレビューでは、従来の開頭術に比べて内視鏡手術は患者さんの予後、手術時間の短縮、入院期間の短縮、術後合併症の減少に寄与していました。

しかしながら内視鏡手術は開頭術に比べて止血操作他で手技の熟練を要し、血腫の効果的な摘出範囲の決定にも経験



COVID-19 流行期の 急性心筋梗塞治療成績について

武野 正義

心臓血管内科 診療科長



動脈硬化症の危険因子の割合、キリップクラス(重症度)、心筋梗塞の既往歴、ピークCK、梗塞部位に有意差はありませんでした。

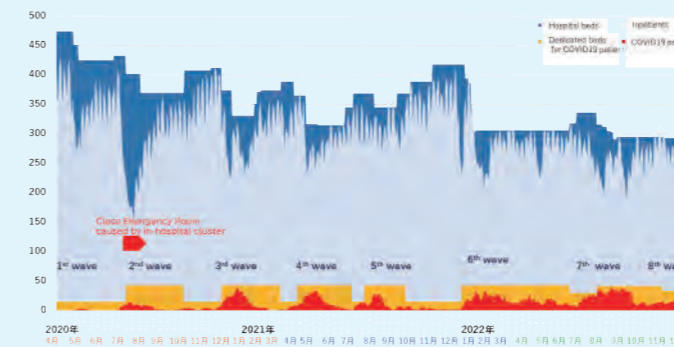
ドアからバルーンまでの時間が90分未満を達成した患者の割合はCOVID-19 流行期で有意に低く、症状が現れてから48時間以上経過して搬送された患者の割合は、COVID-19 流行期で有意に高いという結果でした(図2、図3)。

院内死亡率は、COVID-19 以前:7%、COVID-19 流行期:8.4%と有意差はありませんでしたが、COVID-19 流行期では機械的合併症(心破裂、心室中隔欠損症、乳頭筋破裂)が高くなる傾向にありました(図2)。

背景

2020年7月、院内でのCOVID-19集団感染発生により急性疾患の受け入れを停止せざるを得ず、感染の波が来るたびに入院を制限していました(図1)。

またコロナ禍における厳しい環境の中、当院の看護体制も大きな影響を受け、看護師の退職という課題に直面し、2022年以降もさらに入院を制限する必要性がありました。このような状況下で診療を行った急性心筋梗塞患者の診療成績を以前のものと比較してみました。



▲図1.

調査方法

2017年から2022年までの6年間に診療を行った連続856人の急性心筋梗塞の患者を調査しました。2017年から2019年を「COVID-19 以前」、2020年から2022年を「COVID-19 流行期」と定義しました。

結果

COVID-19以前の474人の患者とCOVID-19 流行期の382人の患者を比較したところ、年齢、男性の割合、アテローム性

	PreCOVID-19 (n=474)	COVID-19 (n=474)	P
Onset to door time			0.02
<12 hours	353(74.4%)	277(72.6%)	
12~48hours	79(16.7%)	50(13.0%)	
48hours<	42(8.9%)	55(14.4%)	
In-hospital outcomes			
Death	33(7.0%)	32(8.4%)	0.44
Mechanical complication	6(1.3%)	13(3.4%)	0.06
Cardiac rupture	4	7	
Ventricular septal defect	2	6	
Papillary muscle rupture	0	0	
Hospital stay(day)	15.2±18.9	15.2±21.7	0.94

▲図2.

▲図3.

結論

COVID-19 流行期では、急性心筋梗塞院内死亡率は以前と変わりませんでした。病院への到着が遅れ、ドアからバルーンまでに時間がかかったことが影響していると思われます。こうした知見を今後役立てていきたいと考えています。

いつでもお気軽にご相談ください。
心臓血管内科 診療科長 武野 正義 ☎ 095-822-3251



当院は「地域がん診療連携拠点病院」です

山道 忍

がん診療推進委員会
研修・研究ワーキンググループ長 兼
消化器内科 医長



「地域がん診療連携拠点病院」とは

「がん診療連携拠点病院」は、がん診療の均てん化(地域間の診療レベルの格差を無くし、質の高いがん医療を提供すること)を目的に、地域でのがん診療連携を推進する中核病院です。厚生労働省が都道府県からの推薦を受け、整備指針に基づき指定しています。

長崎県内では、長崎大学病院が「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定されており、当院を含む5つの医療機関が「地域がん診療連携拠点病院」に指定されています。当院は、令和5年3月23日付で「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。

がん市民公開講座を開催しました

2025年1月18日(土)、出島メッセ長崎において「教えて! みなとメディカルが誇る高度がん治療機器」と題したがん市民公開講座を開催しました。

手術支援ロボット「ダヴィンチ」と、高精度がん放射線治療装置「サイバーナイフ」について、関連診療科医師が講演しました。当日は約150名の方にご参加いただき、参加者の皆さまからは「最新技術の説明が分かりやすかった」「病院の治療方針に信頼感を持てた」「知らないことばかりだった、聴きにきてよかった」等、嬉しいご意見をいただきました(講演後のアンケートより)。

今後もテーマを変えながら公開講座を開催しますので、地域の皆さまや医療機関の方々もぜひご参加ください。



▲講座の様子「前立腺癌について」



▲講座の様子「サイバーナイフについて」

みなとの「ロボット手術」

「ロボット手術」というと不安なイメージを持たれるかもしれませんが、ロボット手術は患者さんの負担を軽減することを目的としており、数cmの切開部からロボットアームと内視鏡を挿入し、医師が操作を行うことで行われます。

ロボット手術の主な特徴には以下のようなものがあります。

- ① 出血の抑制や術後の痛みの軽減が期待される
- ② 回復が早く、入院期間が短縮される
- ③ 解像度の高い画像で確認できるため、安全性が向上する
- ④ 手ぶれ防止機能や関節のある器具により、高い自由度と正確な操作が可能

当院では2023年4月に泌尿器科の前立腺がん手術で導入を開始しました。続いて2023年8月からは呼吸器外科の肺がん手術、2023年12月からは消化器外科の大腸がん手術にも使用されています。

費用については保険適用となっており、従来の手術と患者さんの負担は変わりません。また、高額療養費制度を利用することで、さらに負担を軽減することも可能です。

詳しくは当院ホームページをご参照ください。
(高額療養費制度について)



▲Q&Aトークセッションの様子

1 One TEAM REPORT



▲心臓血管外科手術の様子

心臓血管外科手術チーム

今号の表紙の写真は、心臓血管外科手術チームです。執刀の心臓血管外科医をはじめ、患者さんの心のケアと手術の確かな進行管理を担う手術室看護師、術中の患者さんの心臓の動きや呼吸、循環機能の安全管理を行う麻酔科医、心臓手術では欠かせない人工心肺装置を安全に運転してくれる臨床工学技師。これらのプロフェッショナル達がケアを提供し、患者さんが速やかに日常生活に復帰できるよう日々努めています。

手術以外にも、術後患者さんの状態が安定しない時期の管理を24時間体制で行う集中治療部の医師や看護師のほか、患者さんの状態に合わせて入院時からリハビリテーション介入する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士。リハビリテーションの効果はめざましく、患者さんはいまみるみる楽になり、笑顔も見られるようになります。栄養管理については糖尿病代謝内科医が血糖管理を行い、患者さんの好みに合わせ食事内容を検討してくれます。飲み込む力の弱い人、食欲がわかないひとには直接話を聞きながら工夫をしてくれます。



▲2024年5月、心臓血管外科手術チームが介入した開胸手術の症例数が700例に到達しました。

最近では80歳以上の高齢の方も心臓手術を受ける機会が多くなってきました。これらの患者さんでは飲み込む力が衰え、誤嚥性肺炎を起すことが大きな問題でしたが、摂食嚥下機能を評価し訓練・治療にあたる耳鼻科の医師や専門の看護師による「飲み込む力」の訓練介入のおかげで、高齢の患者さんの術後の肺炎が減り、回復が早くなりました。

主治医がすべての仕事をこなしていた時代は終わりました。様々な管理の専門スタッフによるチーム医療のおかげで、心臓血管外科治療が快適に受けられるようになったのです。

心臓血管外科 診療科長 橋詰浩二

こんにちは！ 臨床検査部です

「迅速、正確、付加価値」をモットーに

臨床検査部は、部長(医師)、臨床検査技師、採血看護師、事務員(窓口受付)で構成されています。

臨床検査技師は、生理部門(心電図、超音波、呼吸機能、脳波など)、検体部門(生化学、免疫、血液、一般)、微生物部門、輸血部門、病理診断科に分かれ、それぞれの業務を担っています。

私たち臨床検査部のモットーは「迅速・正確・付加価値」です。生化学・免疫検査の採血管には高速凝固採血管を採用しており、一般的な採血管の約3分の1の時間で検査に使用できるため、検査結果が早く分かると高く評価されています。

また、検査機器の日々のメンテナンスにも注力し、個人の検査技術向上にも努めています。その成果として、日本臨床衛生検査技師会の品質保証施設認定を受けており、全部門で質の高い結果を提供できると自負しています。

今後も患者様が安心して採血や検査を受けられるよう、受付から検査終了まで笑顔を決やらず、温かみのある検査室を目指してまいります。

臨床検査部 技師長 松本 玲子



STAFF'S VOICE

臨床検査部 副技師長(生理検査部門)

三浦 学



より質の高い結果を求めて～日々進歩～

当院臨床検査部では、年々進化していく医療や臨床検査と向き合い、最新の機器を用いた検査法で質の高いデータの提供を常日頃から心がけています。そのため膨大なデータ管理や結果の再現性などに細心の注意を払っています。また、個人スキル向上に向けて、各種認定制度にもチャレンジしています。

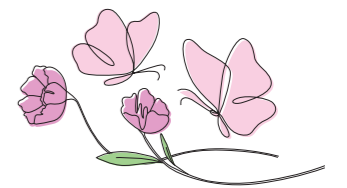
生理検査室は10名のスタッフで日頃の勤務にあたっています。認定資格保有者は、認定超音波検査士8名、認定心電検査技師1名と精鋭揃いです。2年目の新人も超音波検査士の資格取得にむけて頑張っています。

今後も迅速でより質の高い結果を提供できるよう、臨床検査部一同で頑張っていきます。



歯科 診療科長
Sawako Noda

支える人、寄り添う人 野田 さわこ



歯科医療と長崎医療人育成の充実

私は、長崎みなとメディカルセンターで歯科医師として勤務しています。全身麻酔で手術を受ける方やがんの治療をされている方など、主に入院中の患者さんのお口の管理をしています。

「からだの病気で入院したんだから、口はしなくていいよ。」と言われることがあります。お口の中には想像以上の細菌が棲んでいます。手術、化学療法、放射線治療などで体の抵抗力が低下すると、健康な時には何も問題を起こさないこれらの細菌たちが、肺炎や菌学的感染症を起こし、治療をしにくくしたりすることがあります。

化学療法は強いお薬を使う治療ですので、口内炎のような副作用が出る場合があります。そのような場合に備えてお口の中の環境を整えておくトラブルを少なくすることができ

ます。

2019年9月、長崎県内地域の病院内歯科診療、医科歯科連携の強化、歯科研修医の教育の充実を目的に、長崎大学医療教育開発センター内に長崎医療人育成室・歯科が設立

されました。そこから私は長崎大学病院からの配属先として3年前に着任しました。

私はこれまで長崎大学病院の口腔外科に所属し、診療を行うとともに「歯肉再生」をテーマとした研究をしてきました。歯科医師になつてすぐに再生医療の研究に参加する機会があり「歯は再生できる」という、今ではニュースでも聞きますが、当時はとても画期的で魅力的な講演を聴講しました。このことをきっかけに再生医療の研究へ興味を持つようになり、臨床研究までつなげることができました。

歯科チーム・歯科衛生士たちとともに入院患者さんのお口の健康をサポートすることで、「口から食えること」を支え、療養生活の質を維持できるよう、また、かかりつけ歯科への架け橋になれるように努めています。



▲歯科衛生士と共に、入院患者さんの歯のケアを行う様子

もっと！知りたい

MINATOPICS

11月



医療・健康講座(長崎市立図書館)

11月29日、長崎市立図書館と共催で「医療・健康講座」を開催いたしました。「サイレントキラー 腹部大動脈瘤」をテーマに、心臓血管外科 診療科長 橋詰 浩二による講演を行いました。講演終了後は同会場で見守り・社会福祉士による健康相談会を開催し、参加者の皆様からは「とても参考になった」「またこのような講座を定期的に開催してほしい」と嬉しいお声をいただきました。

12月



みなとのクリスマス

当院では毎年クリスマスの時期に、2階ラウンジにクリスマスツリーを飾っています。また、4階北の小児病棟にも、ささやかながらクリスマスツリーやタペストリーを飾っています。患者さんや入院中のお子さま達が、季節を感じ少しでも気分が和らぐよう、陰ながらお手伝いが出来ていれば嬉しく思います。

臨時募集



研修会や講演会のテーマを募集

当院では、地域の医療従事者の方を対象とした講演会や研修会を開催しています。地域医療にかかわる講演会や研修会の内容や、こんな講演会を聞いてみたい等、地域の皆様のご要望やご意見がありましたら、ぜひ患者総合支援センター事務局までお寄せください。